

倫理

社会科標準問題

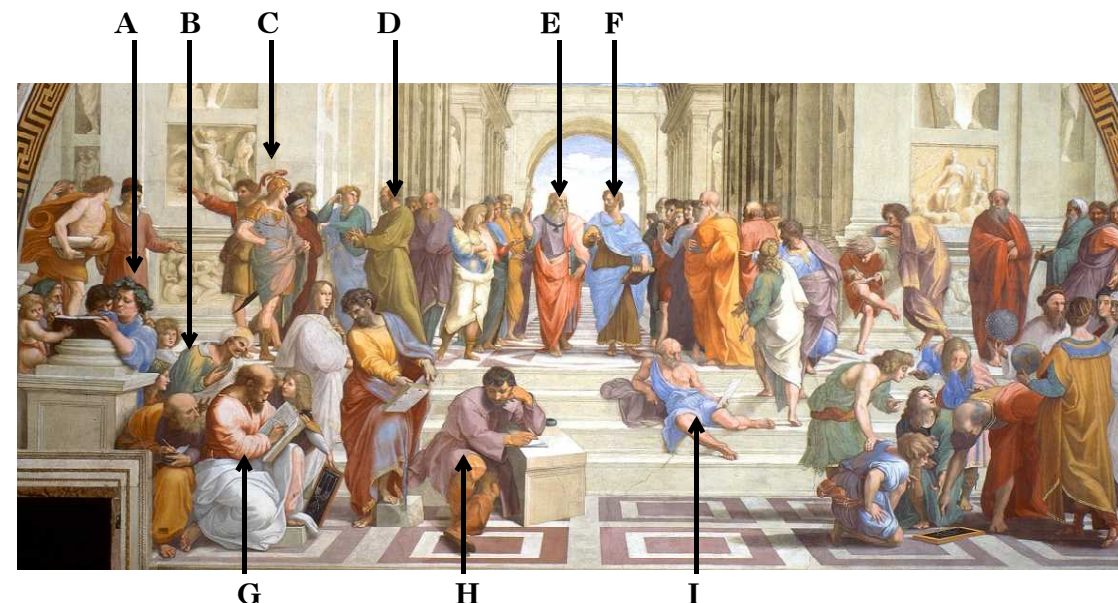
平成30年度

注意

1. 問題は1から5までであるが、そのうち4題を解答すること。どの4題を解答するかは、学校の指示に従うこと。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に指示通り記入すること。
3. 所要時間は50分とする。
4. 解答用紙の選択した(または指定された)問題番号の□に○を記入すること。

大阪府高等学校社会(地歴・公民)科研究会

- 1 次の文章は、高校の倫理の授業での先生と生徒たちのやりとりである。文章を読み、下の問いに答えよ。



J先生：この絵は「アテネの学堂」というタイトルの絵画の一部です。これを見て何か気づくことはありますか。

生徒K：たくさんの方が描かれているだけでなく、それぞれポーズを取っているように見えます。

生徒L：「アテネの学堂」というタイトルや人物の服装などからすると、この人たちは古代ギリシアの人たちではないかと思います。

J先生：そうですね。ここに描かれているのは、古代ギリシアの哲学者たちで、それぞれの思想がそれぞれのポーズで表されています。例えば中央の二人はEがプラトンでFがアリストテレスなのですが、(a) プラトンは右手で天を指差すポーズで、アリストテレスは右の手の平を地上に向けるポーズで、それぞれの思想を表現しています。では、この中でソクラテスはどの人物だと思いますか。

生徒M：Dの人物だと思います。これまで授業で学んだ内容から、(あ)というのがソクラテスの思想だと言えますが、それがDのポーズで表現されています。

J先生：そのとおりです。他にも多くの哲学者たちが描かれていて、(b) Gはピタゴラス、Hはヘラクレイトスです。そしてAは(c) エピクロスです。

生徒N：階段の中央付近で、階段にもたれかかって寝そべっているIの人物は誰ですか。

J先生：(い)です。ヘレニズム初期のキニク派の哲学者で、禁欲主義の先駆けとも言われている人物です。樽の中に住んでいて、Cのアレクサンドロス大王がやってきて何でも望みを叶えるから言うように言われたときに、「日向ぼっここの邪魔なのでそこをどいてほしい」と答えたそうです。

生徒N：なるほど。服もはだけていてなんだかだらしない感じで描かれていますが、それは(い)の、世俗の価値に捉われない生き方や考え方が表現されているわけですね。

J先生：そうですね。ところでこの絵には古代ギリシアの哲学者だけが描かれているわけではありません。実はBはイブン＝ルシュドで、12世紀に(d) イスラーム支配下のイベリア半島で活躍したアラブの哲学者です。ヨーロッパではアヴェロエスの名で知られていますが、アリストテレスの哲学を研究し、(e) キリスト教や(f) ユダヤ教の世界に影響を与えました。

生徒O：それではこの絵が描かれたのは古代ギリシアの時代ではなく、それより後ということですか。

J先生：そうです。この絵はバチカン宮殿の壁画として16世紀にラファエロによって描かれたものです。ではなぜ16世紀に、主に紀元前6～4世紀の古代ギリシアの哲学者たちの姿を想像して絵を描いたと思いますか。

生徒P：古代ギリシアへの憧れみたいものがあったのでしょうか。

J先生：そうだとすると、なぜ古代ギリシアへの憧れが生まれたのでしょうか。

生徒Q：もしかしたらその当時の社会が古代ギリシアと正反対の状態だったからではないですか。

J先生：なるほど、良い視点です。確かに当時のヨーロッパ社会はキリスト教の強い影響下にあり、神を中心に置く(g)キリスト教会によって人々が抑圧されていました。それに対して、古代ギリシアでは、個人が尊重され、理性による真理の追究が重視されていました。16世紀の人々はそのような古代ギリシアの世界に、人間が解放された理想の世界を見たのです。そのことについては、ルネサンス期の思想としてあらためて勉強する機会があります。今日の授業はこれから探究の時間とします。(h)グループごとに、この絵に関連するテーマを自由に設定し、教科書や資料集、備え付けのタブレット端末を使って調べて下さい。次回、グループごとにプレゼンテーションをしますので、この授業中に発表内容を準備しておきましょう。

問1 下線部(a)について、プラトンやアリストテレスの思想を説明したものとして最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① プラトンは、人間の幸福は行為の中で実現しうる最高の善であるが、これを実現するには実際に倫理的徳を習慣として身に付けるしかないと考える現実主義の哲学を説いた。
- ② プラトンは、不完全で感覚的な現実の世界とは別に、完全で真の实在であるイデアの世界があり、人間の魂はイデアを想起することができるという理想主義の哲学を説いた。
- ③ アリストテレスは、人間の魂には理性、気概、欲望の三つの部分があり、国家には統治者、防衛者、生産者の三つの階級がある中で、その調和を図る現実主義の哲学を説いた。
- ④ アリストテレスは、個々の事物には素材となるエイドスだけでなくそれが何かを規定するヒュレーが内在しているため、世界が発展していくという理想主義の哲学を説いた。

問2 空欄部(あ)に入る記述として最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 神霊(ダイモン)の声を聞き、受け止めることで、人々を無知の状態に導き、先入観なく物事の本質について考えられるようにすることを重視する。
- ② 自ら無知を装いながら人々と問答することによって、相手の考え方の矛盾点を指摘し、相手に自分が無知であることに気づいてもらうことが大切である。
- ③ 人間の無知を自覚した上で、デルフォイの神託を信じ、神々の考えを人々に伝えるために、実際に広場に出かけて議論することが重要である。
- ④ お互いの考えを言葉にして伝え合う中で、自らの無知に気づき、考え方は人それぞれであり、絶対的な真理などないということを知ることが大事である。

問3 下線部(b)に関連して、万物の根源を追究した自然科学者たちについて説明した次の文章のうち、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア ピタゴラスは、霊魂の不滅と輪廻を信じて、魂を鎮めるための音楽を学び、宇宙の真理である数の秩序を信仰の対象とする学問と宗教の団体を形成した。
- イ ヘラクレイトスは、これ以上分割できない究極的要素であるアトムが、空虚の中で運動や結合をすることで、万物が成立するという説を唱えた。
- ウ パルメニデスは、万物の根源は火であるとし、世界は生成変化に満ちていると捉え、「同じ河に二度入ることはできない」という言葉を残した。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ アとイ ⑤ イとウ ⑥ アとウ

問4 下線部(c)について、エピクロス思想の説明として最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 理性に従うことを妨げる欲望や感情を抑制し、いかなる情念にも心を動かされない不動心を保つことが重要である。
- ② 自然の一部である人間は、自然を支配する理性を共有しているので、自然の法の下では平等な存在として、自然に従って生きるべきである。
- ③ 心を乱す原因となる公共生活から身をひき、田園の中の学園で質素な共同生活を送ることによって、心の平静さを保つべきである。
- ④ 神々にまつわる迷信や死の恐怖は理論的に根拠のないものと認識し、欲望を抱いたり快楽を求めたりせずに禁欲的に生きるべきである。

問5 空欄部(い)に入る人物として最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①ゼノン ②キケロ ③マルクス＝アウレリウス ④ディオゲネス

問6 下線部(d)について、イスラームの教義や戒律として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 偶像崇拜は禁止されており、アッラーを象った像を作ったり、預言者ムハンマドの肖像画を掲げたりしてはならない。
- ② イスラームの戒律に従って処理されたものでなければ、豚肉だけでなく、牛肉や鶏肉も食べてはならない。
- ③ 女性は夫以外の男性に髪や肌を見せてはならず、スカーフのような布を巻くなどの方法で身体を覆わなければならない。
- ④ 預言者ムハンマドの言行ではなく、アッラーがムハンマドに伝えた言葉のみに従い、断食や喜捨などを行わなければならない。

問7 下線部(e)について、次のイエスの言葉のうち、イエスの黄金律を表すものとして、最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。」
- ② 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」
- ③ 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」
- ④ 「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」

問8 下線部(f)について、ユダヤ教の聖典である旧約聖書の内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 唯一神ヤハウェが、この世界のすべてを6日間で創造し、最初の人類であるアダムとイブ(エヴァ)を造った後、7日目に安息したとする内容が「創世記」に書かれている。
- ② アダムとイブ(エヴァ)が、神との約束を破って禁断の木の実を食べてしまったため、神に与えられた楽園から追放されたという「失樂園」の物語が書かれている。
- ③ 預言者モーセが、神の導きによりイスラエル人を率いてエジプトから脱出するとともに、十戒を神から授かり人々に示したという内容が「出エジプト記」に書かれている。
- ④ バビロンに強制移住させられていたイスラエル人が、ノアの箱舟によってパレスチナに帰還し、ユダヤ教を正式に成立させた「バビロン捕囚」の経緯が書かれている。

問9 下線部(g)に関連して、教会や修道院の附属学校では、哲学によるキリスト教の教義の体系化が行われ、スコラ哲学と呼ばれた。スコラ哲学の大成者であるトマス＝アクィナスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 信仰の真理と哲学の真理を明確に区別した上で、「恩寵は自然を破壊するのではなく、完成する」と述べ、理性に対する信仰の優位を説いて両者を調和させた。
- ② 知恵、勇気、節制、正義からなる古代ギリシアの四元徳の上位に、信仰、希望、愛からなるキリスト教の三元徳を位置づけ、神の絶対性と教会の権威を基礎づけた。
- ③ 信仰の真理については、プラトンのアイデアやアリストテレスのエイドスのような複雑な哲学的議論から独立させて、聖書に基づく限られた原理によって論じるべきとした。
- ④ 神学にプラトンの哲学の要素を加え、世界は超越的な一者である神から流出し、また神へと返るという一元論的な世界観にまとめた。

問10 下線部(h)について、次の授業で各グループがプレゼンテーションした内容のうち、発表内容が**誤っているもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① あるグループは、イブン＝ルシュドの存在に注目し、イスラーム教とキリスト教の対立の歴史の中で、イスラーム圏で発達した古代ギリシアの哲学が西欧社会に流入し、12～13世紀のスコラ哲学最盛期が築かれたことを発表した。
- ② あるグループは、ラファエロの絵画と中世ヨーロッパの絵画を比較し、中世ヨーロッパの絵画ではキリスト教が主題となっており、人物はラファエロのように肉体的ではなく平板に描かれていることを指摘して、人間性の抑圧の表れとして発表した。
- ③ あるグループは、アレクサンドロス大王に注目し、彼がソクラテスのリュケイオン学園で学んで哲人政治を志し、10年余りでギリシア・エジプトからインド西部にまたがる大帝国を建設したことによって、ヘレニズムの時代が到来したことを発表した。
- ④ あるグループは、この絵画のあるパチカン宮殿について調べる中で、パチカン宮殿に隣接するサンピエトロ大聖堂が、イエスの弟子ペトロの墓の上に建てられたとされていて、ローマカトリック教会の総本山となっていることを知り、発表した。

2 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

「禍福はあざなえる縄の如し」と言われる。人生において災いや幸せは、次々と姿を変えてやってくる。そのような中で私たちは、できるだけ苦しみが少ない幸福な人生を願い求めるが、幸福になるための秘策というようなものは、あるのだろうか。

一般に、幸福になるために大切だとされていることとして、感謝や笑顔、親切、正直や勤勉などがある。そして忘れてならないのは、慢心への戒めだろう。たとえ一時的に幸福な状態になったとしても、慢心して墮落すれば、それまでの苦勞が無に帰すことがある。たとえば、嘘をついて不正に利益を得たり、不倫をしたり、ハラスメントによって人を傷つけるといった悪事を行い、それが知れ渡れば、それまで積み上げてきた信用を一瞬で失うことになる。仮に人の目はごまかせたとしても、天の目はごまかせない。天網恢恢疎にして漏らさず、である。

古代中国の殷王朝では、亀の甲などのひび割れの仕方によって天の意を伺おうとしていた。また(a) 古代インドでは、バラモンが聖なる言葉によって神々を讃えて富を願い、幸福を祈った。ここからは、人の世の様々な苦しみに対し、天を意識し神の加護を願い求めることによって、ご利益を得ようとした営みがあったことがわかる。謙虚な気持ちで神意を問い、神を崇めて恵みに感謝し、その加護を求めることは、現代においても幸福への一要因だといえるだろう。

一方、真理の自覚や価値観の見直しなどによって幸福に至ろうとする考え方もある。ブッダは瞑想の末、(b) 普遍的な真理を悟り、欲望を捨てて(c) 正しい行為を実践することによって、人は(d) 苦しみから救われると教えた。また荘子は、善悪や美醜などはすべて人間の価値判断によるものであり、一切の人為的な区別を否定した。そして、(e) 道という大いなる立場から見れば、強者も弱者も、生も死も同じだと考えた。困難に直面したとき、神に救いを求めてもすぐにはそれを得られないこともある。したがって、普遍的な真理を求めたり、絶対的な価値観で世界を俯瞰したりすることにより、これまでとは異なる視点で目の前の問題を根底から捉え直すという努力も、幸福を追求する上で欠かせないだろう。

また、個人の修養に加え、政治的アプローチによって社会全体をより良くしようという思想もある。(f) 人間性を重視した孔子は、為政者が人格者となれば、民衆はその徳性に魅かれて行為を正し、国が良く治まると説いた。幸福な世を実現するために、社会に多大な影響力をもつ(g) 為政者に働きかけることは、重要なことである。孟子は「恒産なければ恒心なし」と述べ、為政者は生活の安定を政治の基本とすべきだと説くとともに、(h) 五倫を重視した。儒教では、身を修めることで、家庭が円満となり、(i) 国家が治まり、世の中が平和になると説かれる。政治家や官僚が、道徳心を持ち私益を貪らず、すべての人々が平和で豊かに暮らせるような世の実現を目指すべきだと主張は、現代にも通じるところがある。

こうしてみると、幸福になるための道のりは遠く、そう簡単にはいかないようだ。しかし、幸福を目指して先哲の示した道標をたどろうと決意したその時から、大きな意味での幸福はすでに始まっているのかもしれない。

問1 下線部(a)に関して、古代インドやバラモン教に関連する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 先住民族を支配しながらガンジス川流域に定住したアーリヤ人の社会は、厳格な身分秩序であるカースト制度をもっており、その中ではクシャトリアが最上位の身分であった。
- ② バラモン教は特定の聖典をもたなかったが、民間信仰を取り入れて民衆の間に定着し、多くの神々のなかでもブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァの三神が崇拝された。

- ③ バラモン教におけるウパニシャッド哲学では、輪廻から解脱するための教えが説かれたが、その奥義はアートマンとブラフマンとが本来同一であると自覚することである。
- ④ バラモン教を批判する自由思想家たちのうちヴァルダマーナの開いたジャイナ教では、極端な快楽や苦行は避けられ、すべての生きとし生けるものをあわれむ教えが説かれた。

問2 下線部(b)に関連して、四法印を表す語句の組み合わせとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 受・想・行・識 ② 苦諦・集諦・滅諦・道諦
③ 不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語 ④ 一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜

問3 下線部(c)に関連して、八正道についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 八正道とは、煩惱の炎の消えた安らかな悟りの境地に至るための実践的な修行法のことであり、具体的には正見、正業、正念などを指すものである。
- ② 八正道とは、無限に繰り返される生まれ変わりの苦しみから解放されるための修行法のことであり、具体的には布施、精進、禪定などを指すものである。
- ③ 八正道とは、知恵と慈悲によって一切の衆生を救うための禁欲的な苦行のことであり、具体的には正思、正命、正定などを指すものである。
- ④ 八正道とは、苦しみに満ちた人生に快楽をもたらすため縁起の法を洞察するための修行法のことであり、具体的には持戒、忍辱、智恵などを指すものである。

問4 下線部(d)に関連して、ある問題に直面して悩んでいる人物に対し、大乘仏教の立場からアドバイスを述べたものとして**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「いま君が悩んでいる問題の原因にはまた別の原因があつて、永遠不変なものではないのだし、悩みの実体など本当はないのに、あると思つて苦しんでいるにすぎないんだよ。」
- ② 「いま君は悩んでいて、救われたいと思つているようだけれど、それだけでなく、他に苦しんでいるたくさんの人を助けようと努力することも大切だよ。」
- ③ 「いま君が悩んでいるのは、世の真理を知らず自分にとらわれていることが原因だから、自分の思い通りにしたいという欲をなくせば、苦しみから解放されるよ。」
- ④ 「いま君は悩んでいるけれども、君が悩んでいる問題は他人とは一切関係なく自分の問題なのだから、他人の心配はせず、自分のことだけ考えればいいんだよ。」

問5 下線部(e)に関連して、荘子の理想像として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 徳を身に着け、何ごとにも動じない不動心を持ち正しいことを実践する人
- ② すべてを自然にゆだね、あるがままを受け入れ、絶対自由の境地に遊ぶ人
- ③ 感情や欲望を抑制し、物事の道理を窮めて知恵を完成させる人
- ④ 生まれながらにもつ是非善悪を判断する心のはたらきを窮めて生きる人

問6 下線部(f)に関連して、次のア・イは孔子が重視した徳についての説明である。その正誤の組み合わせとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- ア 仁とは、両親に対する敬愛である孝や、兄の弟に対する思いやりである悌など、近親者の間の自然な情愛を、すべての人に対して平等にもつことである。
- イ 憐れみの心や不善を恥じる心などの徳の芽生えはすべての人に生まれながらに備わっており、これらを養い育てることにより四徳を実現できる。

- ① ア 正 イ 正 ② ア 正 イ 誤
③ ア 誤 イ 正 ④ ア 誤 イ 誤

問7 下線部(g)に関連して、次の資料は臣下と君主について述べた『韓非子』からの引用文である。この内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

(群臣は働いて忠誠を表しえず、百官は職を守って功をあげないようになるのは)なぜかと言うに、そもそも安全で有利なものに心を向け、危険で有害なものからは去るのが、人情である。いま人の臣となって、己の能力を尽くして功を立て、己の知恵をしぼって忠を示す人たちは、その身は苦しめられ、家は貧しく、親子もろともに禍いにさらされねばならぬが、姦悪なことをやって利益を収め、それで君主をごまかし、賂いを使って重臣の気に入ろうと努める人たちは、身は尊くなり、家は富み、親子もろとも恩沢にあずかることができる、とあつては、人々がどうしてその安全で有利な(姦臣の一味となる)道を取るか、危険で有害な(明法知術の士の味方になる)道を取ろうか。しかし、国を治めたその結果が、このように(姦臣どもをのさばらせること)になつては、君主の過失である。こうなつてから君が、臣下の姦悪をなすものなく、百官が法規をよく守るように望んでも、かなわぬことは明らかである。

- ① 人は利と安全を求めるものであるから、君主に忠誠を尽くし、知恵をしぼって能力を発揮した臣下は、成功を収めるとその地位を利用して有害な仕事を避けようとする。
- ② 名誉や財産を得るためには、たとえ家が貧しく苦しかろうとも、臣下として法規を守り、危険な仕事をあえて引き受けるよう努めなければならない。
- ③ 能力を尽くした忠実な臣下が苦しみ、卑劣な方法で名誉や財産を築く臣下が幅を利かせるようになるのは、君主に落ち度がある。
- ④ 卑劣な行為によって利益を得て、それを隠すために君主を欺き、出世するため重臣に賄賂を送って買収する臣下が、最後に失敗するのは明らかである。

問8 下線部(h)に関して、五倫の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 五倫とは親・義・別・序・信のことであり、基本的な人間関係のあり方を示したものである。
- ② 五倫とは親・義・別・序・信のことであり、理想的な政治方針を示したものである。
- ③ 五倫とは仁・義・礼・智・信のことであり、基本的な人間関係のあり方を示したものである。
- ④ 五倫とは仁・義・礼・智・信のことであり、理想的な政治方針を示したものである。

問9 下線部(i)に関連して、次のア～ウは、国の秩序安定や富国強兵策を求める社会的要求に呼応して登場した諸子百家についての記述である。その正誤の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 墨家は、すべての人が君臣の別なく平等に農業に従事することで平和が実現すると説き、侵略行為は正義に反するものだとして否定した。
イ 法家は、法律と刑罰によって国家を治めるべきだと説き、人間の利己心を利用し、賞罰によって法を厳しく守らせるべきだと主張した。
ウ 兵家は、陰と陽の対立関係と木火土金水の五行の運行で、自然現象や社会現象を説明する陰陽五行説によって、戦争の理論や戦術を説いた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問10 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 幸福を求める方法には様々あるが、人に親切にし、恩恵に対する感謝を忘れなければ、幸福な状態を保つことができる。そして、人に悟られぬよう細心の注意を払う努力を怠らない限り、不正により私益を増大することも許される。
② 古代中国やインドでは、占いや呪術によって神意を問い祈祷することによって、人は神から恵みをもたらされ、加護を得られると信じられてきた。しかし現代においては、そのような行為はほとんど行われなくなっている。
③ 幸福を追い求める上で、天を意識し、与えられている恵みに感謝することは大切な要素である。しかしそれだけではなく、普遍的な真理を求めたり、自分の立場に固執せず、絶対的な視点から物事を捉えなおしたりするよう心掛けることも重要である。
④ 道徳を身に修めた為政者が、政治において民衆の生活の安定を第一の目標とすることで、民衆の幸福は増大する。したがって、幸福な世を実現するためには、徳のある人物が政治家になれるよう経済的に支援することが不可欠である。

3 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

昨今、科学技術の発達は大変著しいものがある。そのような中、現代に生きる私たちには、自然との関わり方や生き方を根本的に問い直す必要に迫られているかも知れない。そこで、今までの私たちの自然との関わり方について、少し振り返ってみることにしよう。

古代の日本では、洪水などの自然災害や疫病は、崇り神、荒ぶる神の仕業と見なされていた。そのような(a) 神は、鳥や獣、あるいは巨木や大岩などにも宿るものとも考えられていた。その一方、自然はすべての生物が生きるために不可欠な実りをもたらすものでもある。つまりそこには、豊穡と災厄とをもたらす自然の両義性や、(b) 道徳的悪と自然がもたらす災厄とをひとまとまりに捉える独特な自然との関わり方が見て取れる。

また、人々は生活を営む中で慣れ親しんだ共同体の外部の世界を神や仏の世界と見なし、外部との境界にあたる辺境に神社、寺院を設けて神を祀り、外の世界から災いが入ってくるのを防ごうとしていたとされる。こうした外部の世界を聖なるものの領域と見なす世界観を反映している例として、山中で修行することを通して呪術的な力を会得することを目指す神仏習合的性格を持つ修験道が挙げられる。また、(c) 最澄が比叡山に延暦寺を建立し天台宗を開いたのは、弟子たちに無常かつ苦しみに満ちた俗界から離れた自然の中で修行させて悟りを開かせようとしたからであった。そして(d) その後、比叡山では多くの僧が学んでいった。

(e) 江戸時代には、儒学が徳川幕藩体制を支える政治や道徳の原理として重んじられた。その中で(f) 伊藤仁斎は、儒学の研究は孔子ないし孟子の著した原典に基づいて行われるべきであると主張し、その上で生きとし生けるものを「活物」と位置づける思想を展開していった。一方で安藤昌益は『自然真営道』を著し、「不耕食」の徒が世にはびこる根拠として、儒学や仏教、神道などを批判した。また(g) 国学者の本居宣長は、人間の心が自然などの外界の「もの」に触れたときに起こるしみじみとした感情をものあはれと呼び、自然とのつながりを考察した。

(h) 幕末の動乱を経て近代になると、(i) 南方熊楠がアメリカ、ついでイギリスへと渡り、多数の英文の論文を『ネイチャー』などの科学雑誌に寄稿した。帰国後は植物の研究から得た視点から、人間の文明の営みをも包括する自然に関する独自の見解を唱えた。そもそも(あ)。そのために先人たちの残した様々な思想が、私たちに顧みられることを待っているのである。

問1 下線部(a)に関し、さまざまな事物に霊的存在が宿るとする考え方として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① フェティシズム ② アニミズム ③ シャーマニズム ④ トーテミズム

問2 下線部(b)に関連して、禊と祓いに関する説明として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 禊とは、捧げものをして罪や穢れを償うことを指し、祓いとは神聖な水で付着した罪や穢れを洗い流すことを指す。
② 禊とは、一定期間神聖な場所に隠れて罪や穢れがゆるされるのを待つことを指し、祓いとは捧げものをして罪や穢れを償うことを指す。

- ③ 禊とは、神聖な水で付着した罪や穢れを洗い流すことを指し、祓いとは一定期間神聖な場所に隠れて罪や穢れがゆるされるのを待つことを指す。
- ④ 禊とは、神聖な水で付着した罪や穢れを洗い流すことを指し、祓いとは捧げものをするなどして罪や穢れを取りのぞくことを指す。

問3 下線部(c)に関して、最澄の思想の説明として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 最澄は若くして具足戒を授かり官僧となったが、奈良仏教が大乗の教えに基づいていないことに疑問を持っていた。やがて奈良仏教と一線を画し、比叡山に利他行を目標とする大乘菩薩戒壇の設立を朝廷に求めたが生前は許されず、僧の育成を独自に行った。
- ② 最澄は奈良仏教から鎮護国家の実現という目標を継承し、それを実現すべく大日如来と一体化し即身成仏することを説いた。最澄は綜芸種智院の創設や満濃池の修築も行ったが、そうした利他の実践も即身成仏を遂げて初めて行えると説いた。
- ③ 最澄は生きものすべてに仏となる素質があるという一切衆生悉有仏性の思想を説いた。また後年に最澄は『正法眼蔵随聞記』を著したが、その中で心を持たぬ国土や草木までもが仏性を持つという山川草木悉皆成仏の思想を提唱した。
- ④ 最澄は法華経に基づいて、仏・法・僧の三宝それぞれが利他行に不可欠であることを強調した。これに対して、徳一は久遠実成の仏のみが重要であると主張した。そこで最澄は徳一に反論するために『十住心論』を著したのである。

問4 下線部(d)に関し、次のア～ウの僧侶のうち比叡山で学んだことのある人物の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑦のうちから一つ選べ。

ア 源信 イ 法然 ウ 道元

- ① ア ② イ ③ ウ ④ アとイ
⑤ アとウ ⑥ イとウ ⑦ アとイとウ

問5 下線部(e)に関し、次のア～ウは、江戸時代の思想家についての記述である。その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 朱子学派の林羅山は、心の中に敬を持つことを心がけるとともに、上下定分の理のあらわれである「礼儀法度」に則って行動することを求めた。
- イ 石門心学の石田梅岩は、仏教・老荘思想・神道も取り入れた上で、人倫の基本原理や宇宙の本体としての孝を説き、それを中心思想とした実践的な道徳を説いた。
- ウ 朱子学派の藤原惺窩は、理が心ばかりでなく体にも行き渡っていると考え、一つ一つの行いを厳格につつしむことを敬だとして、朱子学と神道の一致を説く垂加神道を唱えた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問6 下線部(f)に関して、伊藤仁斎の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 道は抽象的な理ではなく、生まれつきたままの真心であり、その真心に立ち戻るべきである。そのためには朱子学のように理屈で道をとらえようとする精神を捨てなければならない。
- ② 日常的な人間関係における愛はかすかで小さいが、その愛こそ拡充すべき実の心である。人々が他者に対して忠信や忠恕に努めれば、互いに愛し親しむ和合が実現する。
- ③ 天道は事物のおのずからの働きであるが、そこに人道が加わって事物は完全になる。人道とは日々の生活における分度と推譲であり、それにより他者の恩恵に報いる必要がある。
- ④ 武士は主君への忠や、朋輩への信、独りを慎む義を大切にすべきである。そしてそれらを通じて農・工・商の三民を道徳的に指導する存在とならねばならない。

問7 下線部(g)に関して、本居宣長以外の国学者についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 賀茂真淵は、「古道」は、神によって創始されたものであり、この道は漢意を捨て去るところに見いだされるものだと考えた。
- ② 契沖は、宣長の言う神の道を一層押し進め、復古神道を唱えたが、これは死者の霊を考える一方、極端な日本中心主義につながるものであった。
- ③ 荷田春満は、伊藤仁斎の影響を受け、『日本書紀』神代巻の研究を通じて、古代の神の教えを明らかにして古道を発展させた。
- ④ 平田篤胤は、『万葉集』の歌風を男性的でおおらかな「ますらをぶり」ととらえ、そこに、天地自然にかなった理想的精神を見いだした。

問8 下線部(h)に関して、次のア～ウは幕末期に活躍した人物の説明である。その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 横井小楠は、「堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器械の術を尽く」すべしと述べ、科学技術に関しては西洋の学問を積極的に学ぶべきであると説いた。
- イ 佐久間象山は、アヘン戦争に衝撃を受け、日本は進んだ西洋の科学技術を学ぶだけでなく、西洋の道徳や政治制度も積極的に移入すべきだと説いた。
- ウ 吉田松陰は、人々が忠誠を尽くす対象は徳川将軍であり、志をもった在野人こそが変革の原動力となって一君万民の社会を実現すべきだと説いた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問9 下線部(i)に関して、南方熊楠についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『法華経』に影響を受け、菩薩を自らの理想として、動植物と人間とが生き生きと交歓する多くの童話を発表した。
- ② 単に生態系の保全のためだけでなく、地域の文化の中心でもある神社を守る立場から、神社の合祀(統廃合)に反対した。
- ③ 日本における神の原型を「まれびと」とし、それは人々に豊穰や安穩を授けるものであるとして、それらを祀る神社の合祀に反対した。
- ④ 日常の実用的雑器に美を見いだして、そうした民衆の工芸を「民芸」と呼んで新語をつくり、それ以降も民芸運動を展開していった。

問10 本文の趣旨を踏まえて、(あ)に入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 私たちは自然を完全に支配することもできないし、かといって自然そのものを全く否定して生きることもできない。常に私たち人間も、自然の一部に属しており、時代の状況に応じた関わり方を模索し続けなければならない
- ② 私たちは自然に完全に支配されていて、自分の思う通りに生きることなど誰にとっても不可能である。今こそその厳しい現実に戻り、各個人の意志を否定し、人類全体で自然の人間に対する呼びかけに応えなければならない
- ③ 私たちは自然を正しく定義することもできないし、それどころか人間の定義すらできない。今こそこの変わらない真実に立ち返って、各個人が本能に則った自由で奔放な生きざまを追求していかなければならない
- ④ 私たちは自然を長い間自分の思い通りにできると考えてきたし、今でもそのように信じて生活している人は多い。個々の問題で信頼が揺らいだとしても、最終的に私たちは科学技術文明の発達に対する希望を捨ててはならない

4 次の方文章を読み、以下の問いに答えよ。

現代は“post-truth”の時代であるとしばしば言われる。普遍的真理に対する信頼が揺らぎ、絶対的に通用する価値観など存在せず、主観的な信念や個人的な見方が力を持つ時代である、このような見方をする人々は少なくないだろう。こうした「普遍性」への信頼と懐疑は哲学の歴史の中にも見て取ることができる。

西洋近代という時代は基本的に「普遍的真理」の追究を行った時代であったといってもよい。大陸合理論の哲学者(a) デカルトは正しい前提から論理的に推論するならば、普遍的真理に到達できると考えており、「普遍的真理が存在する」ということへの疑いは全く持っていなかった。大陸合理論と(b) イギリス経験論を総合したカントも認識論においてのみならず、道徳論においても「汝の意志の格率が、つねに同時に普遍的な法則として妥当しうるように行なせよ」と述べ、普遍的真理として通用する(c) 道徳法則が存在することを確信していたのである。このようなカントの道徳論を(d) ヘーゲルは批判しており、「道徳」は「普遍的な正しさを目指す主観的な意志」に過ぎないと論じている。しかしそのように論じるヘーゲルも普遍的真理そのものを否定したわけではなく、道徳と法が(e) 弁証法的に止揚された人倫を「普遍的な正しさが具体化されたもの」と述べている。

その後、近代的な普遍的真理への信頼に異議を唱える思想家が現れる。キルケゴールは「私がそのために生き、そして死にたいと思うような理念」である主観的真理こそが「私」にとっては重要であると主張した。この「普遍性」よりも「私」を重視するキルケゴールの思想はその後の(f) 実存主義の流れを決定づけた。またアメリカで生まれたプラグマティズムは(g) 「全ての知識は仮説である」という立場から、普遍的真理を追い求めることを否定している。

このように、いわゆる「現代思想」の主流は「普遍的真理」への懐疑とすることができる。それは(h) ウィトゲンシュタインの「語り得ぬものについては沈黙しなければならない」、(i) 現代フランスの思想家であるリオタールの「大きな物語の終焉」という言葉に象徴されているようにである。しかし現代においてもまた理性への信頼に基づき、普遍的真理を追究しようとする思想家も存在する。フランクフルト学派の(j) ハーバーマスはその一人である。

普遍的真理や絶対的な価値観など存在しないという見方は、価値の多様性を認めるこれからの社会において、より大きな力を持つていくことになるだろう。しかしそのような時代においても普遍的真理を求めようとする営みが続くのは、人間にとって決して譲ることのできない「理想」が存在すると信じているからである。その「理想」とは何か、私たちの一人一人が考えなければならない問題だろう。

問1 下線部(a)のデカルトの思想についての説明として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間の精神は自由な意志によって、身体に由来する感情や欲望を抑え、理性的に生きることができる点に、精神の高邁さがあると考えた。
- ② 人間の論理的に思考する精神を幾何学的精神とよび、この精神の働きによって正しい知識を獲得することが可能であると考えた。
- ③ 感覚的経験にとらわれず、純粹に理性的に思考するならば、唯一無限の実体を永遠の相の下に認識できると考えた。
- ④ 私たちが正しいと思っている知識の全てを疑い、独断を差し控え、あらゆる判断を停止することで心の平静を得ることができると考えた。

問2 下線部(b)に属するベーコンが述べた四つのイドラについての説明として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「洞窟のイドラ」とは、洞窟に住む人間は情報を遮断されているように、確かな情報に基づかず、想像のみで判断を下すことによって生じる偏見のことをいう。
- ② 「市場のイドラ」とは、市場においては貨幣で取引がなされているように、経済的な欲望によって判断を誤ることによって生じる偏見のことをいう。
- ③ 「種族のイドラ」とは、人間という種族は自らの経験から学ぶように、自分がこれまで経験したことに基づき判断することによって生じる偏見のことをいう。
- ④ 「劇場のイドラ」とは、劇場で演じる劇を本物だと感じるように、権威ある人に言われたことを正しいと思い込み判断することによって生じる偏見のことをいう。

問3 下線部(c)について、カントの道徳法則に従った行為の具体例として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① Aさんは勉強を教えることが好きと言われたら必ず教えることにしているが、それは教えることで、みなから好かれると思っているからである。
- ② Bさんは海で溺れている子どもを見つけ助けたが、それは助けることが人間としてしなければならないことだと思っているからである。
- ③ Cさんは電車の中でお年寄りには必ず席を譲ることにしているが、それは譲らないことで、他人から批判的な目で見られるのが嫌だと思っているからである。
- ④ Dさんは嘘をついたことがあるが、それは嘘をつくことによって友人が助かることを知り、友情を大切にしたいと思っているからである。

問4 下線部(d)のヘーゲルの著作として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『人間本性論』 ② 『法の哲学』 ③ 『純粹理性批判』 ④ 『エチカ』

問5 下線部(e)に関連して、ヘーゲルの弁証法を取り入れ自らの思想を発展させた思想家としてマルクスがいるが、マルクスの歴史観についての説明として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 資本主義社会においては豊かな資本家と搾取される労働者の二つの階級に分かれているが、社会を変革するためには、資本家の善意に基づき、資本家が自発的に労働環境を改善していくことが重要である。
- ② 社会の変化の根底には自由を求めて活動する絶対精神が存在しており、その精神が人間を利用することによって革命を起こし、社会は新たな段階へと進んでいくとされる。
- ③ 歴史のあり方を決めている土台となっているのは、生産関係と生産力であり、人間の内面を形成する宗教や道徳はそのような土台によって規定されて変化していくものである。
- ④ 労働者が搾取されている状況は問題であるが、その状況を改善するためには武力による革命を起こすのではなく、議会制民主主義の中で、漸進的に社会を改良していくことが望ましい。

問6 下線部(f)に属する思想家としてサルトルがいるが、サルトルは人間をどのような存在であると考えていたか、その説明として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間は自由に決断することができるが、その決断は周囲の社会に影響を与えるものであるから、社会に責任を負うという形で、社会に拘束されると考えた。
- ② 人間は自由がもたらす孤独に耐え切れず、自由から逃走して全体主義に走る存在であるということを「人間は自由の刑に処せられている」という言葉で表した。
- ③ 人間はまずこの世界に存在し、自らの意志で自らのあり方を定めていく存在であるが、その際には他者との実存的交わりが必要であると考えた。
- ④ 人間は自らのあり方を問うことができる存在でありながら、日常生活の中で「ひと」に埋没し本来のあり方を見失っていると考えた。

問7 下線部(g)の立場をとる思想家としてデューイがいるが、次のア～ウのうち、彼の思想について正しく説明したものはどれか、その組み合わせとして、最も適当なものを下の①～⑦のうちから一つ選べ。

ア 個人の行動は他者に危害を加えない限り自由であるという他者危害原則を唱えた。
イ 知識や理論は生活の中で生じた問題を解決するための道具であると考えた。
ウ 教育は「なすことによって学ぶ」という問題解決学習が望ましいと主張した。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ アとイ ⑤ アとウ ⑥ イとウ ⑦ アとイとウ

問8 下線部(h)のウィトゲンシュタインの思想についての記述として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 観念の意味は行為のもたらす結果によって検証されると考え、自らの思想的立場を、「行為」を意味するギリシア語で表明した。
- ② 科学的な思考とはつねに反証される可能性を持つものであり、反証されることによって新たな思考が生まれ、科学は進歩していくと主張した。
- ③ 日常生活における言語の意味はそれ自体で決まるのではなく、ルールを共有した他者との関係の中で決定されていると考えた。
- ④ 科学的な理論といえどもパラダイムに過ぎないため、その正しさは絶対的なものとは言えず、時代ごとに変化していくものであると述べた。

問 9 下線部 (i) に関連して、現代フランスの思想家と、その思想についての説明の組み合わせとして、最も適当なものを下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア 未開社会には未開社会なりの文明社会とは異なる「野生の思考」が存在していると考え、両者に優劣は存在しないと主張した。

イ 従来の西洋哲学はロゴスにとらわれていると主張し、ロゴス中心主義に基づくそれまでの哲学を解体する「脱構築」を唱えた。

ウ 他者とは自己の理解を超えた絶対的な差異を持つ存在であると考え、他者の絶対的な他性を「顔」によって象徴させた。

- | | | | | | | |
|---|---|-----------|---|-----------|---|-----------|
| ① | ア | レヴィナス | イ | レヴィ＝ストロース | ウ | デリダ |
| ② | ア | レヴィナス | イ | デリダ | ウ | レヴィ＝ストロース |
| ③ | ア | レヴィ＝ストロース | イ | レヴィナス | ウ | デリダ |
| ④ | ア | レヴィ＝ストロース | イ | デリダ | ウ | レヴィナス |
| ⑤ | ア | デリダ | イ | レヴィ＝ストロース | ウ | レヴィナス |
| ⑥ | ア | デリダ | イ | レヴィナス | ウ | レヴィ＝ストロース |

問 10 下線部 (j) のハーバーマスの思想についての記述として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

① その社会に属する人々が対等な立場で理性的に討議を重ね、合意を形成することによって、社会の公共性が築かれると考え、システム合理性が日々の生活を侵食している現代社会に対し、警鐘を鳴らした。

② みなが納得する社会のルールは各人が自らの能力や立場を忘れた状態で討論し、合意に至ることで形成されることが考え、その結果として立てられる正義の原理として、最も不遇な人々の生活を改善するために援助を行うことを肯定した。

③ 人間の行為を労働・仕事・活動の三種に分類し、政治や社会の問題について人々が個人的な利害を離れ、社会的存在として自由に討論する「活動」によって、公共性が形成されると主張した。

④ 物質的・経済的な援助のみを行うことによって、貧困や飢餓の状態にある人々を真に救うことはできないと考え、適切な教育を行うことによって人間の潜在能力を開発することが重要であると考えた。

5 次の会話は、夏休みにアメリカ短期留学に行ってきた生徒と、欧州を遊覧した担任のものである。これを読み、以下の問いに答えよ。

生徒：アツツかったですね、今年の夏は！

師：大阪北部地震に西日本豪雨、それにとまなう甚大な被害。

焦熱地獄に落ちたかと思えるような 40℃ 超えの暑さ！ 末法やな。

生徒：また大仰な・・・!(^^)! 先生、地獄に落ちるようなこと何かしたんですか？

師：いや、その・・・、(a) 環境問題は人類全体の課題やと言いたいわけや。

生徒：2015 年に (b) パリで採択された協定がありますね。

師：世界は環境会議を何回もやってるのに、いっつも良うならんからなあ。

生徒：特に大国に真面目さが見られないですね。大国といえば、この夏アメリカを旅行したんですけど、僕が帰国する寸前、マスコミ各社が一斉に大統領に向けて (c) 「報道の自由」 について見事なキャンペーンをはりました。ジャーナリストの気概を見た気がします。

師：最近、ポピュリズムの傾向のある首相や大統領が、世界中に現れてるもんな！

生徒：扇動的手法、権力の私物化、長期政権への画策、他国への不寛容・・・。

師：するどい！ 君は考える (d) 高校生、いや、考える輩かも。

生徒：先生がフランス人に見えます！でも、先生たちの時代と違って、今の高校生は溢れる情報を選び分けながら、(e) 日々生きてるんですよ。じゃ、夏の話をしましょ！ 一番の体験は、アメリカの砂漠にある国立公園をトレッキングしたことですね。灼熱の砂漠、茫漠たる岩山、音のない風景、見事に造形された大地！もし誰かが意図して創ったのなら、神しかないと思いましたね。そして人間は自然の一部にすぎないと実感しました。そんな人間が、(f) 神を恐れぬ業を行ってもいいのかと・・・。

師：えらい謙虚やな、君。 覇気のない教師をやめさせて君が教壇に立ったらどうや？

生徒：そんなことしたら学校に、先生以外誰もいなくなりますよ！

師：君は常にアイデアを見ているね。で、私はこの夏、欧州に行ったんやが、進化する I T を体感したね。空港でパスポート渡すと、バーコードを読み取って最終目的地まで航空券を発行してくれるし、スペインの宮殿入場を日本で予約して行ったら、クレジットカードを入口の券売機に挿入するだけで、「WELCOME MR.**」と名前が出てきたしな。

生徒：そんなんフツーですよ。

師：なんか、自分の (g) 行動を全部把握されてる感じがして恐ろしかったわ！ パソコン上には、「あなたへのお薦め旅行地」とか「お薦め CD」とか、しょっちゅう出てくるし。

生徒：確かに！余計なお世話じゃ、って怒鳴りたいですよ。でも、AI がどんどん進出して来ると、われわれ人間の在り方、(h) 家族や社会の在り方も変わるでしょうね。

師：生産性の低い人間は、(i) 権力によって淘汰されるのと違うかと危惧しとる。

生徒：先生、まさか自分がまさきに淘汰されると思っってはとか？

師：余計なお世話じゃ！ でもな、あらゆる基準を「成果」つまり数字で換算するような社会はゴメンや。(j) 人間は人間らしく生きたいな。たまにへまもするけど、お互いさまや、とかいう暖かさが、欲しい。

生徒：偏差値や、入った大学で人を格付けするのはいやですね。

師：その通りや。たいしたことない人間に限って出身校の名前をひけらかすもんや。

生徒：なんか、気合いが入ってきました！ 勉強します！

「暑い夏 消えゆく花火と 進路先」という高校生川柳が身にしみます。

師：やっとな気がついたか！ 君も偏差値の高い大学に行けるよう、しっかり勉強せな！

生徒：・・・(絶句)・・・！

問1 下線部(a)に関連して、1972年に行われたストックホルム会議と関係の深い語句として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 共有地の悲劇 ② 宇宙船地球号
③ かけがえのない地球 ④ 成長の限界

問2 下線部(b)に関連して、この協定の内容の説明として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 環境問題を考える時、先進国本位、あるいは現在の世代本位で考えてはならない。これから発展しようとする国々、将来の世代を考え、彼らが享受する経済的、社会的な利益を損なわないように環境を利用していこうとする内容である。
② 地球温暖化への対策は不可欠なものであるから、先進国、途上国の区別なく温室効果ガスの削減をめざす。各国は世界の平均気温を産業革命以降の2℃未満の上昇に、できれば1.5℃以内に抑えようと努力することを求める内容である。
③ 環境問題を考える時、資源問題は避けて通れない。世界が今のままで環境破壊や人口増加、資源浪費を放置するならば、経済成長は望めないとし、浪費を慎み、有効な資源利用を考える「もったいない」をモットーとする内容である。
④ 地球温暖化への対策は不可欠なものであるが、いくら環境会議を開いても、その検証が不十分であり有効ではないとし、アジェンダ【行動計画】の検証を行い、さらに環境と経済成長の両立を目指すグリーン経済を各国の共通認識とする内容である。

問3 下線部(c)に関して、次の文章は「報道の自由」について述べられたものである。(あ)～(う)に入れる語句・文の組み合わせとして、最も適当なものを下の①～⑧のうちから一つ選べ。

報道とは、新聞、テレビなどのメディアが事実にもとづく情報を広く伝達することをいい、それがいかなる権力によっても干渉や阻止されないことを「報道の自由」という。現代社会において事実に関する情報は(あ)であるから、この自由は守られなければならない。ただし、事実の選択や把握においてメディアの主体そのものの価値観が当然明らかになる。その場合、事実の提示と意見の表明を区別することはむずかしいが、それらは、憲法21条の(い)の自由によって保障されている。
しかし、個人がその尊厳を無制限に侵害されるような報道は、たとえ事実にもとづく報道であっても、憲法第13条幸福追求権に依拠する(う)によって、許されるものではない。

- (あ) : ア 国民が社会の現状に対して正しく判断する根拠になっているもの
 : イ 政府が社会の現状を正しく把握し、施政をおこなう根拠とするもの
(い) : ウ 身体
 : エ 表現
(う) : オ 自己情報開示請求権
 : カ プライバシー権

- ① ア ウ オ ② ア ウ カ ③ ア エ オ ④ ア エ カ
⑤ イ ウ オ ⑥ イ ウ カ ⑦ イ エ オ ⑧ イ エ カ

問4 下線部(d)に関連して、青年期の人たちについて、アメリカの心理学者エリクソンはいくつかの見解を示している。彼の考えとして**適当でない**ものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 青年期に、人間はさまざまな出来事に出会い、いろんな悩みを乗り越えながら成長していく。そのため、青年期は大人として果たさなければならない社会的責務を猶予される期間であるとし、この時期をモラトリアム期と呼んだ。
② 人生を8つの段階に分け、人間にはそれら各段階ごとに発達課題があり、それらを達成していくことで、次の段階に移り自己実現していくと考えた。これを「ライフサイクル論」という。
③ 青年期の課題として大切なのは、アイデンティティを確立することである。アイデンティティとは、自分は自分であること、自分は時間的にも連続していること、また集団の一員であり、それを他者から認められていることなどをいう。
④ 人が行動する源は欲求である。まず身体を維持する生理的欲求、次に危険や苦痛を避ける安全欲求、さらに所属と愛情の欲求、承認欲求と続き、青年期には、自分の持つ能力を発揮し、人生を充実させようとする自己実現の欲求が起こると考えた。

問5 下線部(e)に関連して、次の資料は国立青少年教育振興機構が2018年3月30日に発表した「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書」からのものである。

調査は、日本・米国・中国・韓国の4か国の高校生を対象として実施したもので、ここで示したものは「自己肯定感」についての調査結果である。調査結果から読み取れる内容として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

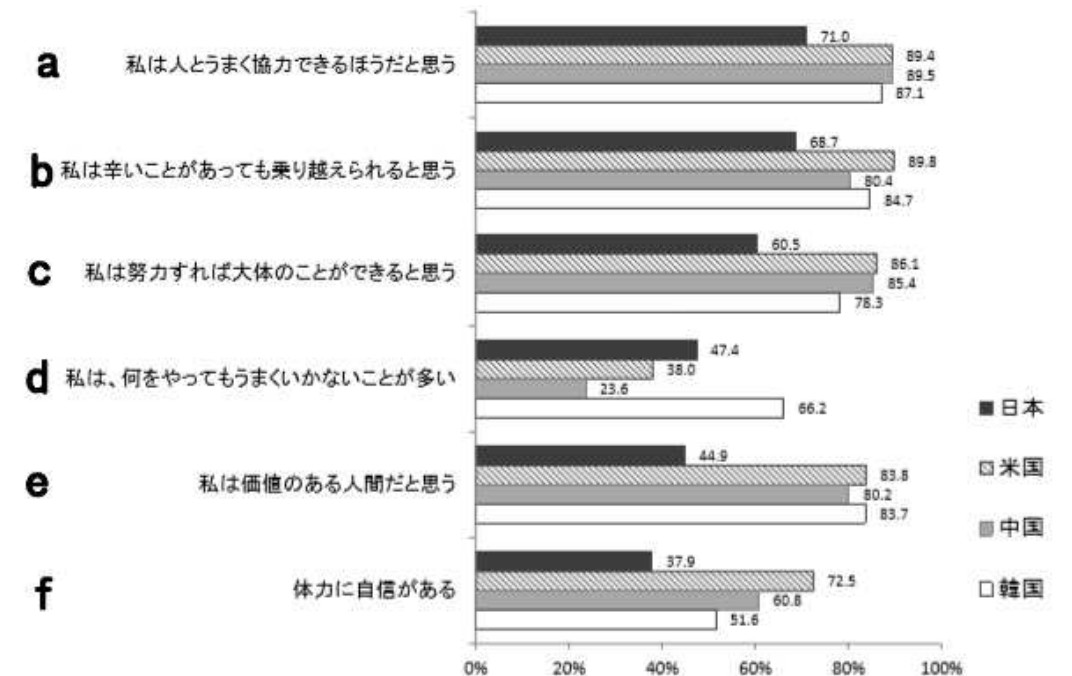


図24 自己評価(「そうだ」「まあそうだ」と回答した者の割合)

- ① 韓国の高校生は、dの「私は、何をやってもうまくいかないことが多い」という自己否定的な項目が1位であるが、b・eなど自己肯定的な2項目ではともに2位であり、b・eがいずれも4位の日本の高校生に比べるとかなり自己肯定的であるといえる。また、a・fの自己肯定的な2項目でも日本より上位にある。
- ② 中国の高校生は、aの「私は人とうまく協力できるほうだと思う」の項目で1位、fの自己肯定的な項目でも2位である。cの「私は努力すれば大体のことができると思う」で4位、またdの「私は、何をやってもうまくいかないことが多い」という自己否定的な項目で2位であり、自己否定感を多く持っていることがわかる。
- ③ 米国の高校生は、a・bの自己肯定的な項目で1位であり、さらにeの「私は価値ある人間だと思う」も1位である。またdの自己否定的な項目が3位であり、自己否定感をあまり持っていないと読み取れる。ただ、自己肯定的なfの「体力に自信がある」が3位である。
- ④ 日本の高校生は、a・bの自己肯定的な2項目で4位であり、3位とのポイント差も10ポイント以上離れているのが特徴的である。またeの「私は価値がある人間だと思う」や、fの「体力に自信がある」がともに4位であり、日本の高校生が自己否定感をあまり持っていないことがわかる。

問6 下線部(f)に関して、古代から、地域・民族を問わず生命は神の仕業と考え、人間がその領域に踏み込んではいならないという考えが大勢をしめていた。20世紀以降、科学の発達はこの領域にも及び、さまざまな問題が生じてきた。

次のア～ウの文章は、生命倫理について述べたものである。その内容についての正誤の組み合わせとして、最も適切なものを、下の①～⑥のうちから1つ選べ。

- ア 遺伝子組み換えとは、遺伝子情報のうち必要な部分だけ組み換えて品種改良をおこなう技術をいう。この技術の安全性については議論の途上にあり、日本ではこの技術によって作られた農作物は、それを表示することが義務づけられている。
- イ 出生前診断とは、受精卵が子宮に着床し妊娠する前に検査を実施し、遺伝的疾患や病気を診断する技術のことである。
- ウ 尊厳死とは、たとえば治る見込みのないがん患者が、その末期に非常に激痛をともなう苦痛を受けているとき、患者本人、もしくは家族の要請により苦痛から解放するため、医師が積極的に患者を死に至らしめることをいう。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
 ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
 ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問7 下線部(g)について、EUではGDPR (General Data Protection Regulation) が2018年5月に施行された。これは、「一般データ保護規則」と訳され、ポイントとして次の3項目が挙げられる。

- 1 この規則は、個人データの保護を目的とした管理規則である。
- 2 グローバル化が進むなか、個人情報の保護と適正な取り扱いを目指す。
- 3 個人がもつデータに対する権利を基本的人権の一部と位置づける。

この規則は今年施行されたため、受験生諸君は授業で学習していないであろうと推察する。上に挙げた3項目を手がかりに、GDPRを中心とした現代の情報社会の諸問題について説明した文章として、適当なものを2つ選び、その組み合わせとして適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 21世紀になり、グローバルなIT企業が現れ、彼らが提供する検索機能、メールソフト、アプリなどを生活インフラとし、われわれはサービスを受け、代わりに個人データを提供している。人をデータの集合として考えるならば、自己の情報の流れを制御する権利つまり自己情報コントロール権は、各個人にあることを確認しなければならない。
- イ 21世紀になり、インターネットの普及とITの進化によってビッグデータと呼ばれる大容量で多様なデータを扱う仕組みが生まれた。グローバルなIT企業が個人に適切なサービスを提供するためには、彼らが入手した個人情報を匿名化せずに、自由に移転・加工・処理・保管することは、企業活動として認められている。
- ウ 21世紀になり、膨大な情報が蓄積される状況が生まれている。2016年に誕生したマイナンバー制度により、国民一人ひとりの金融、医療などの情報を政府が一括管理することにより、行政サービスのより一層の効率化が実現している。一方で国家機密に関しては特定秘密保護法が制定され、国民の知る権利が保障されている。
- エ 21世紀になり、グローバルなIT企業が現れ膨大な個人情報を蓄積している。そうになるとデータが一人歩きし、各個人の資産、支払い能力、学歴、などを用いて各個人を評価し格付けするようなことが起こり、新たな差別や排除が生まれる可能性がある。各個人は企業に自分の情報を任せるのではなく、主体的に管理することが大切である。

- ① アとイ ② アとウ ③ アとエ
 ④ イとウ ⑤ イとエ ⑥ ウとエ

問8 下線部(h)に関して、家族や社会について述べた文章として、最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 日本の社会は少子高齢化が急速に進んでいる。一方で法律による結婚形態にとらわれない男女の在り方の多様化も進み、婚外子の割合が増え、2014年現在フランスを抜いて世界一位になっており、合計特殊出生率の低下を防ぐ要因となっている。
- ② 日本の社会は少子高齢化が急速に進んでいる。その結果、家族の形態も変化してきており、21世紀に入り、単身者のみの単独世帯や夫婦のみの世帯が増加傾向にあり、親・子・孫で構成される三世帯世帯は減少傾向にある。
- ③ あらゆる人たちが普通の生活を送ることを目指す考え方をノーマライゼーションと呼ぶ。日用雑貨品の分野でも障害者を念頭に置いた「ユニバーサル・デザイン」をこえ、誰もが無理なく使える「バリアフリー」の製品が考案されている。
- ④ 日本では、21世紀に入り雇用の形態が大きく変わってきた。契約社員や派遣労働者の数が減少傾向をみせ、「終身雇用」「年功序列型賃金」など日本型といわれる雇用形態が、近年の労働組合が組織率の上昇とともに、急速に増えつつある。

問9 下線部(i)に関して、社会的な弱者や不遇な境遇にある人、あるいは人種や民族の違いを理由に、排除・差別されている人、さらには国や社会から十分な保護を望めない人たちの例は枚挙にいとまがない。そういった事例についての説明として、最も適当なものを次の①～④から一つ選べ。

- ① 子どもを産まない、子どもを産めない女性が生産性が低いわけではない。子どもを持つかどうか、いつ、何人持つかなど「性と生殖に関する権利」は女性の基本的権利であり、他者から強制・差別されるようなものではない。
- ② 2017年9月、唯一の被爆国である日本の発議により「核兵器禁止条約」が国連において圧倒的多数の賛成のもと採択された。条約は、核兵器を非人道的なものであると明示し、その開発、保有、実験、使用、さらには威嚇も禁じる画期的な内容である。
- ③ 国際社会はこれまで、人間個々人の安全を十分に担保しようと努力してきたが、それが実現されていない現実を前に、インド出身のアマルティア・センと日本の緒方貞子は国家が国民を守る「国家の安全保障」を共同で提唱した。
- ④ グローバル化が進み異民族と接触する機会が増えると、どうしても自民族の文化を基準に他の文化を判断し、自民族の優越性を誇示する考えが生まれがちになる。近代以前の東洋の諸民族が西欧に対して抱いた東洋優位の考え方をオリエンタリズムと呼ぶ。

問10 下線部(j)に関連して、明治から大正時代に活動した政治家・社会運動家Aは、勝海舟とも交遊があった人物で明治政府の言う「文明」について、それぞれの立場から批判している。勝は明治政府や一部の知識人が、隣国清や朝鮮を野蛮と見くだしたことに對して腹を立て、野蛮の側に立って政府を批判している。一方、Aは幕末期には封建的抑圧に對し、明治時代には弱い立場の民衆を翻弄する大企業に對して抗議活動をした人物である。彼は晩年、払い下げられた官営工場を軸に繁栄する近代日本の姿を見ながら、日記に「真の文明ハ山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」という言葉を残している。

以上を参考にして、人物Aを特定し、彼について正しく説明している文章として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 明治時代、イエスと日本という2つのJに命を捧げた人物に新渡戸稲造がいる。彼は愛する日本が起こした日清戦争を義戦と評価したが、実は朝鮮を属国化する戦争にすぎなかったことを見抜き、日露戦争には敢然と反対した。人物Aは彼である。
- ② 明治時代、熊本の官営工場から水俣湾に流れ出るメチル水銀が魚介類に凝縮し、それを食べた人に手足の感覚異常などの症状が出る水俣病が起こった。平塚らいてうは『青鞥』を著し、常に患者の側に立って被害者救済に力を尽くした。人物Aは彼女である。
- ③ 明治時代、日本は朝鮮半島を植民地にしたが、その朝鮮半島の陶磁器に高い芸術性を見いだした美術家・思想家に岡倉天心がいる。彼は政府が朝鮮文化を無視し、朝鮮民族を日本に同化させようとするのを強く批判した。人物Aは彼である。
- ④ 明治時代、富国強兵を進める政府は大企業と結びつき、環境保護よりも経済優先の政策をとった。足尾銅山から流れ出る鉱毒により栃木県の渡良瀬川流域は甚大な被害を被った。この鉱毒事件に生涯をかけて政府と戦ったのが田中正造である。人物Aは彼である。